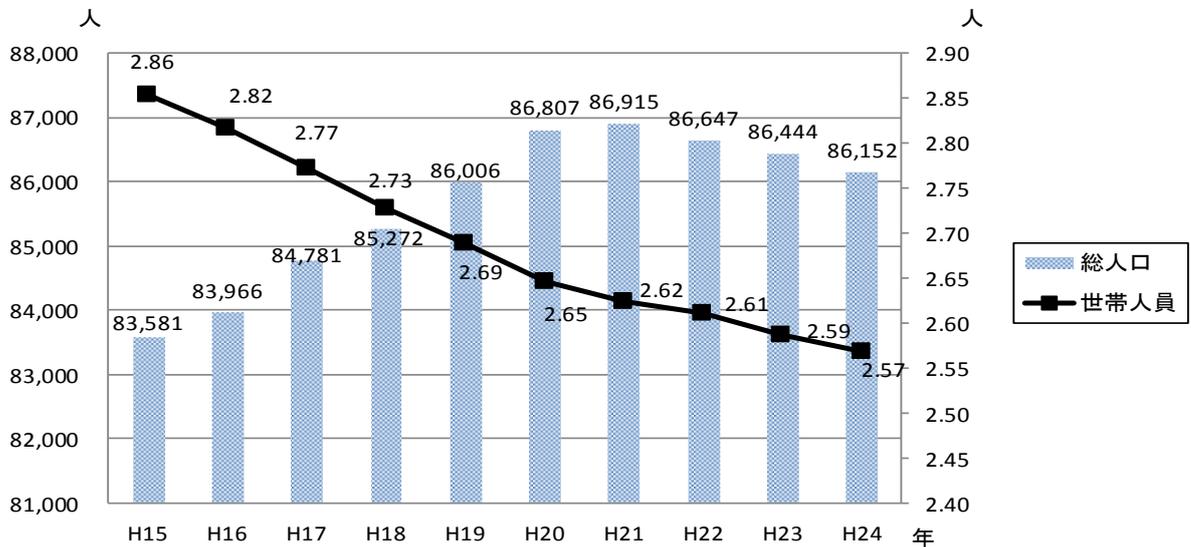


第2章 知多市の現状と課題

1 人口と人口構成

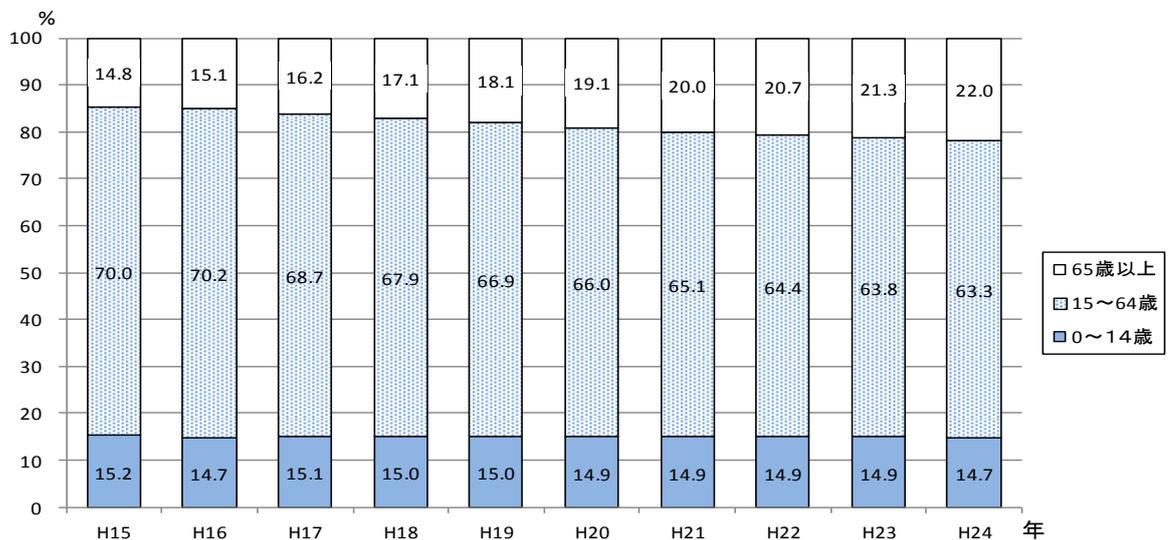
人口と世帯人員（各年10月1日現在）



資料：総合窓口課

知多市の人口は、平成24年10月1日現在、住民基本台帳による人口は86,152人で、平成21年をピークに減少の傾向にあります。また、一世帯当たりの人員は、毎年、減少しています。

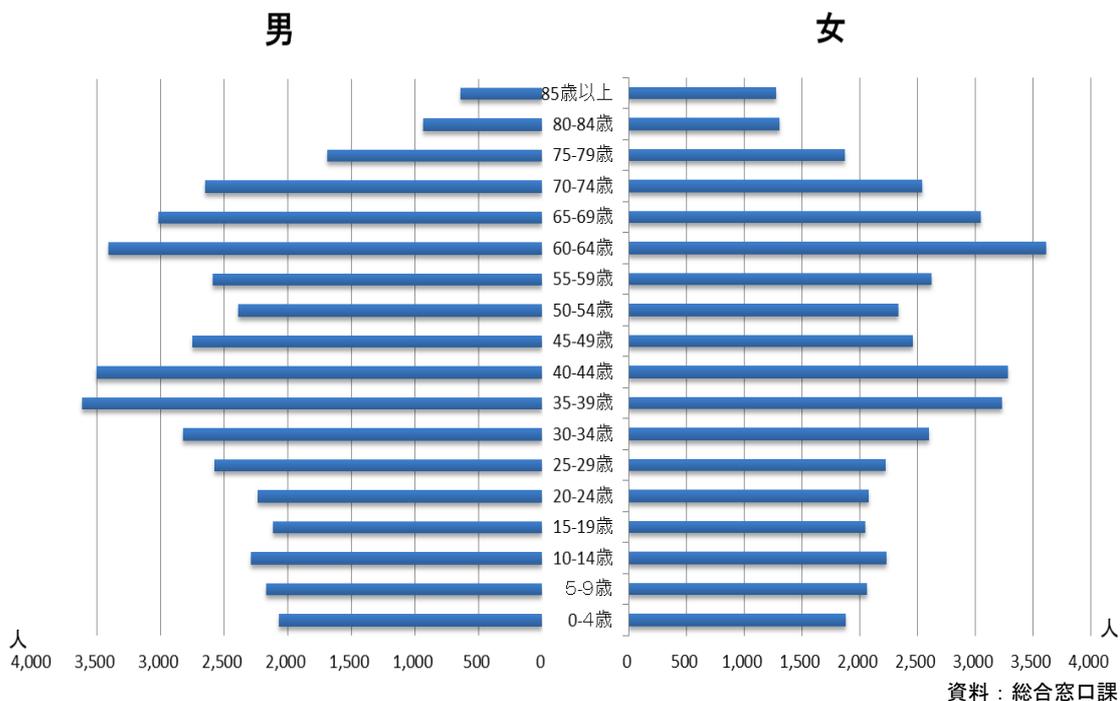
人口構成の推移（各年10月1日現在）



資料：総合窓口課

知多市の人口構成は、65歳以上の高齢者の割合が平成23年に21%を超えました。団塊の世代といわれる昭和22年から昭和24年にかけて出生した方が平成24年から平成26年の間に65歳となることにより、高齢者数、高齢化率*ともに更に急速な伸びが見込まれます。

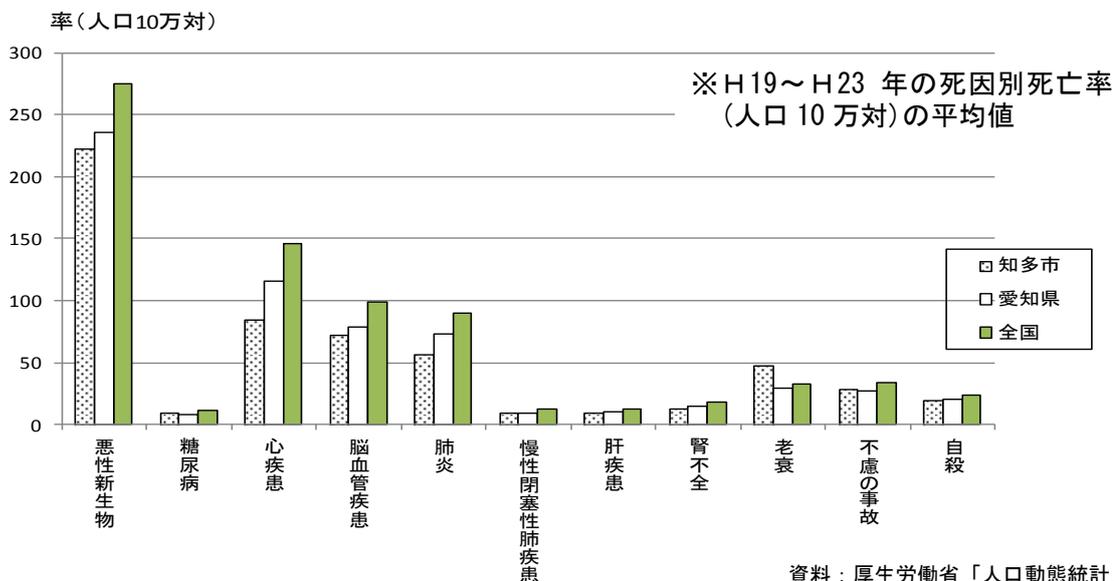
5歳階級別人口ピラミッド（平成24年10月1日現在）



5歳階級別人口ピラミッドは、「ひょうたん型」に近く男女共第1次ベビーブーム（昭和22年～昭和24年）に生まれた方を含む60歳から64歳の人口が多いことが分かります。更に、第2次ベビーブーム（昭和46年～昭和49年）に生まれた方を含む層をピークに減少に転じ、少子化傾向になっています。

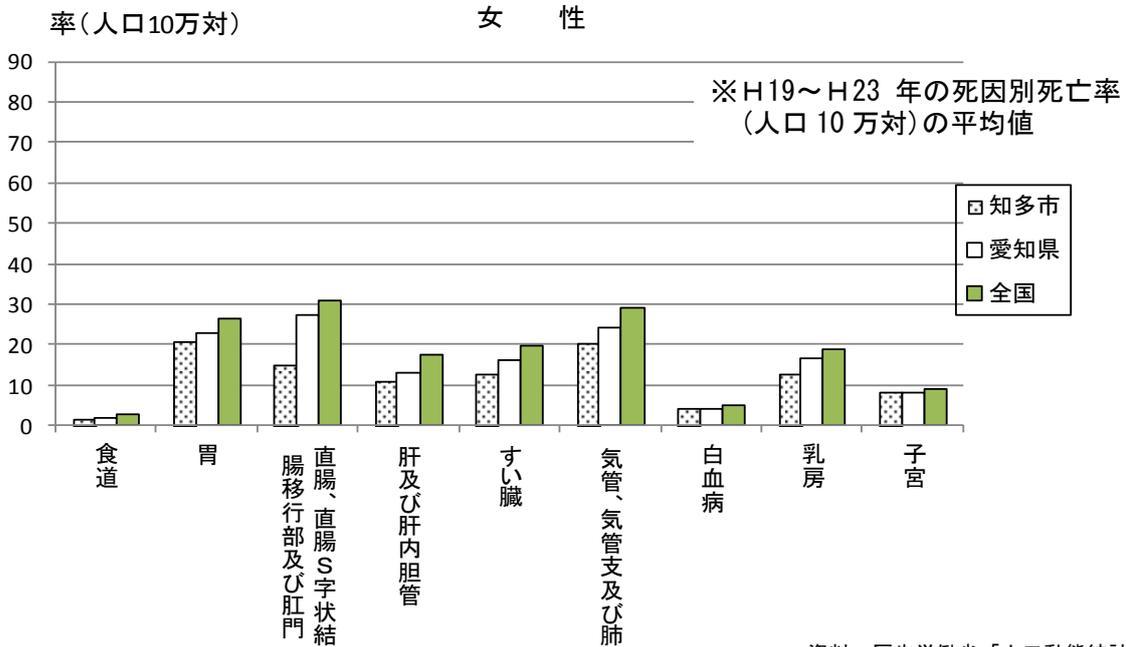
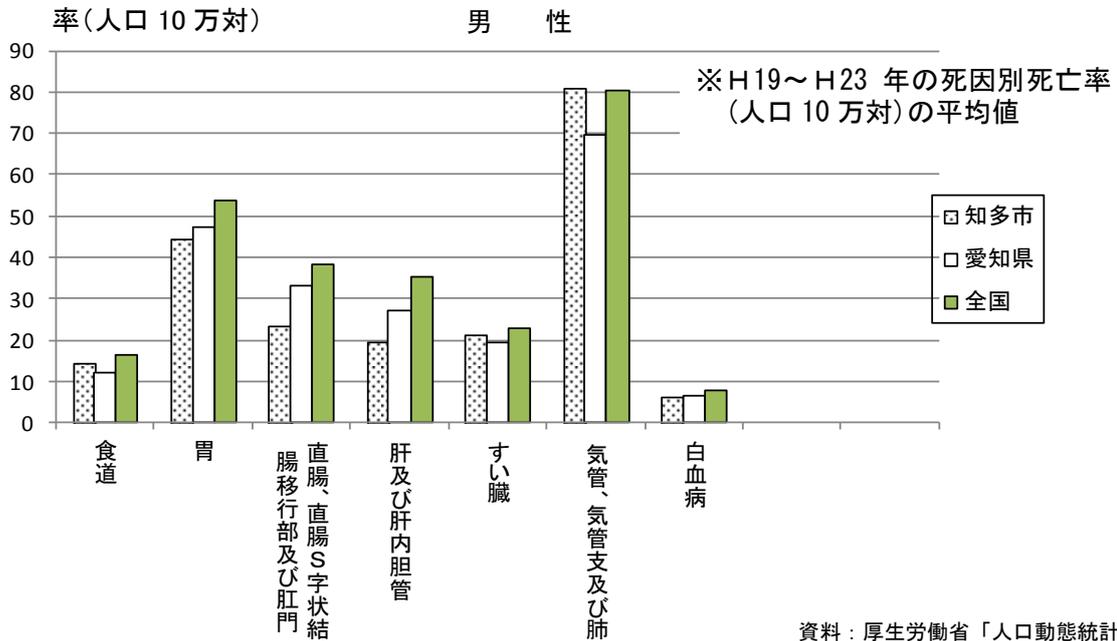
2 死因別死亡率等

死因別死亡率（人口10万対）



死因別死亡率（人口10万対）は、1位が悪性新生物、2位が心疾患、3位が脳血管疾患、4位が肺炎の順になっています。知多市の特徴としては、愛知県や全国と比べて老衰が高くなっています。

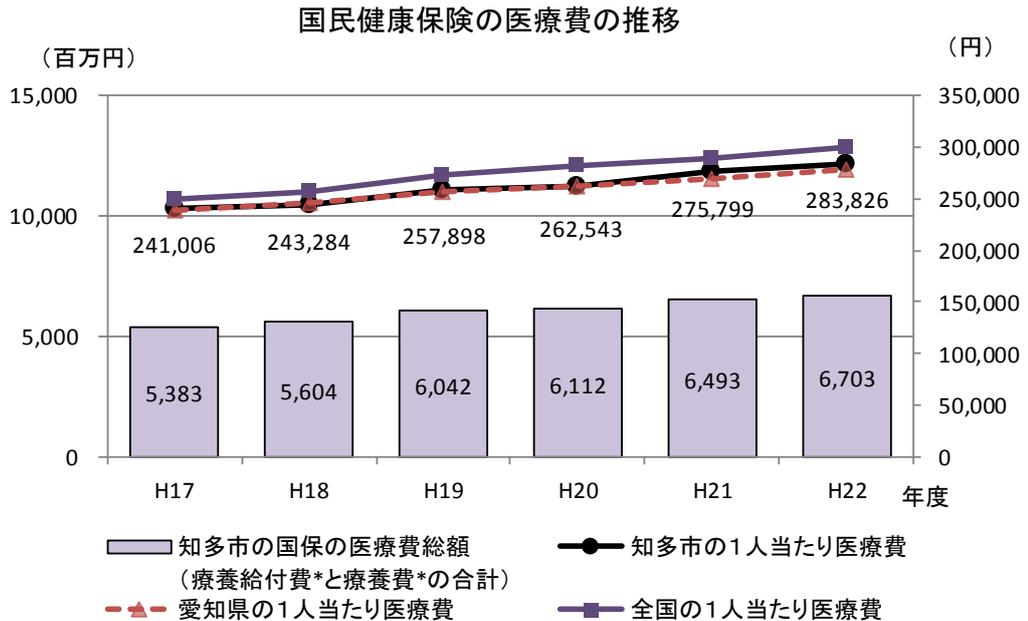
悪性新生物部位別死亡率（人口 10 万対）



悪性新生物の部位別死亡率（人口 10 万対）は、男性は 1 位が肺がん、2 位が胃がんとなっています。特に肺がんは、愛知県や全国と比べて高くなっています。

女性は、1 位が胃がん、2 位が肺がんとなっています。白血病を除いた全てのがんで、愛知県や全国と比べて低くなっています。

3 医療費の状況



資料：国民健康保険の実態（75歳未満）
国民健康保険事業年報（75歳未満）

知多市の医療費は、平成22年度に67億300万円に達し、平成17年度と比較すると13億2,000万円の増で1.25倍となっています。1人当たりの医療費は、全国より低く、愛知県とほぼ同じ額で推移していますが、平成22年度には283,826円と平成17年度から42,820円増加しています。

主要疾病別医療費の状況

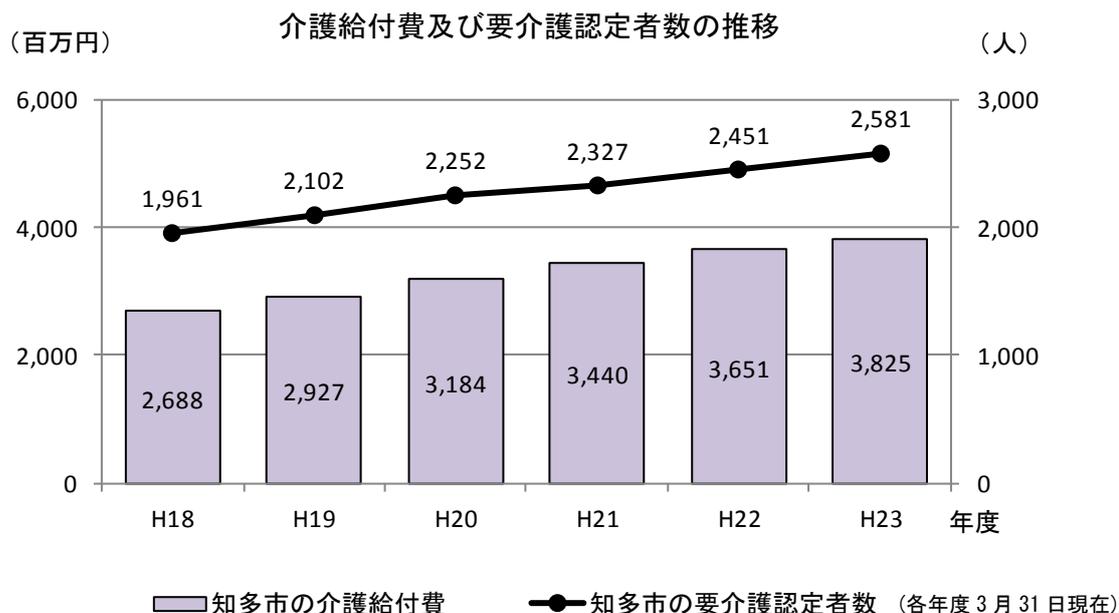
疾病	知多市		愛知県		全国	
	医療費(円)	割合	医療費(円)	割合	医療費(億円)	割合
悪性新生物	23,741,640	5.6%	2,641,619,010	6.6%	30,312	10.2%
虚血性心疾患	7,481,080	1.8%	1,089,815,240	2.7%	7,420	2.5%
脳血管疾患	27,725,430	6.5%	2,768,671,010	7.0%	17,691	5.9%
糖尿病	29,641,870	7.0%	1,654,348,300	4.2%	12,149	4.1%
高血圧性疾患	28,559,650	6.8%	2,325,502,570	5.8%	18,830	6.3%
その他の疾患	306,272,970	72.3%	29,310,047,280	73.7%	211,846	71.0%
合計	423,422,640	100.0%	39,790,003,410	100.0%	298,248	100.0%

知多市・愛知県 疾病分類統計平成23年5月診療分(国民健康保険分 ※調剤・療養費等を除く)
全国 厚生労働省平成22年度国民医療費の概況について(4、5月調査)

知多市の医療費の合計に占める生活習慣病(悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧性疾患)の割合は、約3割を占めています。

知多市は、愛知県や全国と比較し、医療費の合計に対して糖尿病の占める割合が高い傾向にあります。悪性新生物と虚血性心疾患の割合は低い傾向にあります。

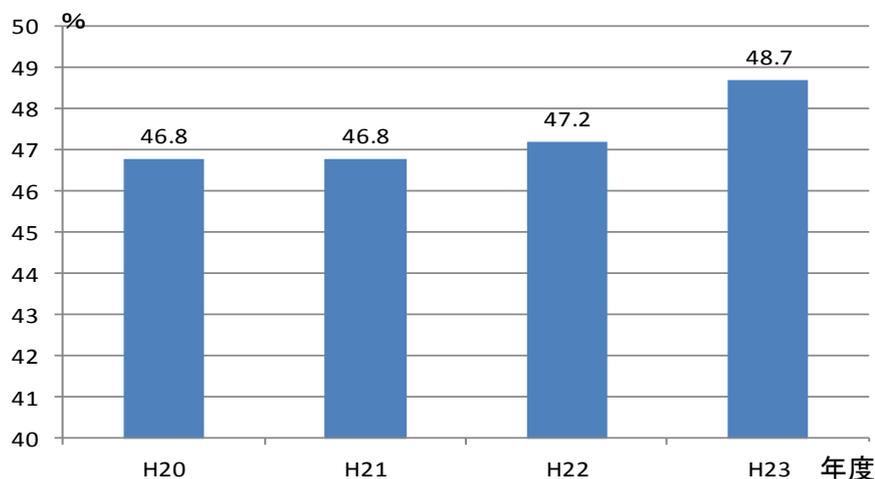
4 介護給付費等の状況



知多市の介護給付費は、平成 23 年度に 38 億 2,500 万円に達し、平成 18 年度と比較すると 11 億 3,700 万円の増で 1.42 倍となっています。要介護認定者数は、毎年増加しており、平成 23 年度末には 2,581 人と平成 18 年度末から 620 人増加しています。

5 特定健康診査の受診状況

特定健康診査受診率（知多市国民健康保険）



特定健康診査*の受診率は、わずかに増加していますが、平成 23 年度目標値の 60.2%には達していません。

また、現在は集団健診で行っていますが、個別健診も実施し、受診しやすい体制づくりをする必要があります。

6 課題のまとめ

知多市は、全ての市民が健やかで、こころ豊かに生活できる活力ある社会を目指して健康づくりを推進してきました。

平成 23 年には 65 歳以上の人口（高齢人口）が 21%を超え、「超高齢社会*」に突入し、更に、現在の人口ピラミッドを見ると、戦後生まれの団塊世代を含む 60 歳から 64 歳までの人口が多く、数年後には高齢人口が急増することになります。

このような中、死因別死亡率を見ると、知多市においても愛知県や全国と同様で、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患が死因の半数以上になっています。悪性新生物部位別死亡率を見ると、男女共に肺がんと胃がんが多くなっています。これらは、壮年期を襲い早世（早死）を招くものであります。

また、医療や介護に要する費用が年々増大しています。今後更に 75 歳以上の高齢者の急増が見込まれることで、益々病気や介護に要する負担の上昇が予想されます。

主要疾病別医療費の状況を見ると医療費全体に占める生活習慣病（悪性新生物、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧性疾患）の割合は約 3 割を占めています。特に糖尿病は、愛知県や全国に比べて割合が高くなっています。このことは、生活の質（QOL）の低下を引き起こすとともに、健康寿命*の延伸の弊害となります。

このことから、生涯を健康で過ごすためには、生活習慣病発症予防と重症化予防が大切です。若いうちから定期的に健康診査及びがん検診を受診するとともに、健康管理や生活習慣の改善が重要となります。

